

# 令和7年度学校自己評価システムシート (県立戸田翔陽高等学校)

## S07

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。 2 自身も他者も尊重し、自ら判断して行動する自律性を育成し、自己肯定感を高める。 3 探究する力を育て、多岐にわたる進路希望の実現を系統的・組織的指導で支援する。 4 学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> 一人一台端末の活用や「言語能力」の育成を目指した授業改善は実施されているが、欠席を理由とした成績不振者数が増加している。 <b>【課題】</b> ・一人一台端末の活用。 ・生徒の言語能力の育成。 ・成績不振者の増加。	生徒が端末を利用する機会を増やし、ピアラーニングや表現活動など、生徒の言語能力を育成する活動を充実させる。	①ICT機器の活用により、基礎的な知識の定着を図る。 ②ICT機器の活用とアクティブラーニングの授業の実施により、生徒の表現活動の機会を増やし、言語能力を育成する。 ③日本語支援員、学習サポーター等による積極的な学習支援を実施する。 ③個々の欠席の理由を把握する。	①生徒の授業評価において、理解度が向上したか。 ②生徒が一人一台端末を利用した学習活動ができたか。 ②言語能力の育成のため、より多くの言語活動を実践できたか。 ③成績不振者数を減らせたか。			
2	<b>【現状】</b> 多様な背景を持ち、自己肯定感が低い生徒がいる。自身の行動に責任を持ち、自ら判断して行動できる生徒の育成が望まれる。 <b>【課題】</b> ・多様な背景を持つ生徒の基本的な生活習慣の確立。 ・外国籍の生徒への支援の充実や多文化共生意識の向上。 ・生徒の自己肯定感の向上。 ・成年年齢に伴う教育の継続的な実施。	自ら判断して行動する場面を増やすとともに、生徒の自己肯定感を高める。	①基本的な生活習慣を身に付ける取り組みを継続するとともに、生徒が自ら判断し行動する場面を作る。 ②成年年齢に関する授業を計画的に実施する。 ①特別支援教育委員会や多文化共生推進事業の更なる充実により、各生徒に適切な支援を行う。 ②コーディネータを中心に戸田かけはし高等特別支援学校との連携を積極的に進める。	①生徒の自律性を高める教育活動の場が作れたか。 ①生徒の自己肯定感を高め、中途退学者数を減らせたか。 ②成年年齢に関する授業を計画的に実施できたか。 ①困っている生徒を早期に把握し、校内外の連携を生かして生徒を支援することができたか。 ②特別支援教育の視点を生かして、多様な生徒の理解を深め、生徒の支援を行うことができたか。			
3	<b>【現状】</b> 進路希望・実績ともに、大学短大、専門学校、就職と多様化している中、進学希望者が増えてきている。 <b>【課題】</b> ・進学指導の充実。 ・多様化する進路希望。 ・年次、教科と連携した進路指導部主導の進路指導。	探究的な学習の場面を増やすとともに、生徒一人ひとりの多様な進路に対応する。	①「産業社会と人間」の系統立てた実施により、生徒の進路意識を高める。 ②各種ガイダンスや外部模試受験の促進等、進学希望者の支援を更に充実させる。 ③データ化した求人票を活用し、保護者とも連携しながら就職支援を粘り強く実施する。	①生徒の進路希望・適性検査をもとに「進路の手引き」を効果的に活用した履修指導ができたか。 ②各種ガイダンス等の実施により、生徒の学習意欲・進路意識向上につながられたか。 ③進路指導の満足度は高かったか。			
4	<b>【現状】</b> 地域連携を生かした活動を実施できるようになってきた。もっと地域との交流の場を増やす必要がある。 <b>【課題】</b> ・地域と交流する場を増やす工夫。 ・積極的かつ持続的な地域へのPR活動及び生徒募集の推進。	地域との連携により地域に根付いた学校づくりに取り組む。	①各関係機関との連携を生かして、生徒の活動を充実させる。 ②学校通信の近隣自治会への回覧を継続するとともに、地域との交流を充実させる。	①県及び市関係行事などに生徒が関わることができたか。 ②学校通信を発行するとともに、文化祭などを地域に案内することができたか。 ①ホームページ・インスタグラムのアクセス数を増やせたか ②学校説明会参加者の高い満足度は得られたか ②志願者数を増やせたか。			

実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	